TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまの知恵　なぜ、むしろ不正を甘んじて受けないのですか。
コリントの信徒への手紙一 6 章 1～11 節

2025 年 2 月 15 日 & 16 日
余沢　武 牧師

1.　はじめに

こんにちは。これまでコリントの教会が分裂しており、性的な不道徳が許されていたことを学びました。パウロは「淫らな者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人を罵る者、酒に溺れる者とは交際してはいけない」と言いました。今日は、コリントでの別の問題について見ていきます。お祈りしましょう。

2. なぜ、むしろ不正を甘んじて受けないのですか。

（1）　仲間の者とのもめ事

1 コリント 6:1 をみてみましょう。そこにはこう書かれています。「あなたがたの間で、仲間の者ともめ事になった人が、それを聖なる者たちに訴え出ないで、よりによって、正しくない人々に訴え出るようなことを、なぜするのでしょうか。」

コリントのクリスチャン達は、同胞の信者を裁判にかけていました。その後 7 節で、そのもめ事が「不正」についてであったことが示されています。したがって、ここで言及されているのは、お金や財産、ビジネスの取引の問題に関して民事裁判所に訴えることだったのがわかります。

当時、ローマの刑事裁判所は公平で客観的だと考えられていましたが、民事裁判所は賄賂やえこひいきがある場所として知られていました。

パウロは 2 節、3 節でこう続けます。「あなたがたは知らないのですか。聖なる者たちが世を裁くのです。世があなたがたによって裁かれるはずなのに、あなたがたはささいな争いすら裁く力がないのですか。私たちが天使をさえ裁くことを知らないのですか。まして、日常の生活に関わることは言うまでもありません。」

ですから、パウロはこう問います。なぜ、あなたがたは未信者に自分達を裁かせているのですか。イエスと共に、あなたがたはいつか「この世」や「天使や悪霊」を裁くことを知らないのですか。

4 節-6 節「それなのに、日常の生活をめぐる争いが起きると、教会では軽んじられている人たちを裁判官の席に着かせるのですか。私がこう言うのは、あなたがたを恥じ入らせるためです。一体、あなたがたの中には、きょうだいの間の争いを仲裁できるような知恵ある者が、一人もいないのですか。きょうだいがきょうだいを訴えるのですか。しかも信仰のない人々の前でそうするのですか。」

パウロは、「なぜ教会では軽んじられている人たちを裁判官の席に着かせるのですか。」と言いたかったのです。それは、淫らな者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人を罵る者、酒に溺れる者だったのにそこから救われた人達が、まだその罠に囚われている人に何が正しいか間違っているかを教えてもらうようなものです。

また、イエスの弟子達、たとえばペトロやヨハネが、ピラトやヘロデ王に何が正しくて何が間違っているかを教えてもらおうとするようなものです。パウロは「クリスチャンに助けを求めればよいのではないか？」と言っているのです。

（2）　あなたがたの敗北です。

7 節-8 節「そもそも、互いに訴え合うことが、あなたがたの敗北です。なぜ、むしろ不正を甘んじて受けないのですか。なぜ、奪われるままでいないのですか。それどころか、あなたがたは不正を働き、奪い取っています。しかも、そのようなことをきょうだいに対してしているのです。」

パウロは彼らにこう言っています。訴訟に勝ったかどうか、またはそのお金を取り返せたかどうかにかかわらず、法的な争いをしているという事自体が、彼らがすでにこの世に「敗北した」ことを示していると。ではもしそうだとするなら、勝利とは一体どのようなことなのでしょうか。

その答えはこうです。それが正当に考えて自分のものだと主張して争う代わりに、「不正を甘んじて受ける」、

または「奪われるままでいる」ことを選ぶことです。パウロはこう言っています。「なぜ、むしろ不正を甘んじて受けないのですか。なぜ、奪われるままでいないのですか。」

そうです。私達の目標は争いに勝つことではなく、イエスの姿すなわちイエスの「自己中心的でない無私の愛」を現わすことです。

1 イエスはマタイ 5:39-40 でこう言っています。「しかし、私は言っておく。悪人に手向かってはならない。誰かがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。」

2 パウロはローマ 12:17 でこう言います。「誰にも悪をもって悪に報いることなく、すべての人の前で善を行うよう心がけなさい。」

そうです。これが、神が私達に持っていてほしいと願う「イエスのご性質」です。そして、神は私達の人生の中で起こるもめ事を通して、私達にイエスの「無私の愛」を教えているのです。

ローマ 8:28-30 にはこうあります。「神を愛する者たち、つまり、ご計画に従って召された者のためには、万事が共に働いて益となるということを、私たちは知っています。神は前もって知っておられた者たちを、御子のかたちに似たものにしようとあらかじめ定められました。それは、御子が多くのきょうだいの中で長子となられるためです。神はあらかじめ定めた者たちを召し出し、召し出した者たちを義とし、義とした者に栄光をお与えになったのです。」

つまり、神は私達の人生に争いをもたらし、私達を御子イエスのように変えようとしておられるのです。つまり、右の頬を打たれたら左の頬を向け、悪をもって悪に報いないことを私達が学ぶためです。

ヤコブ 1:2-4 にはこうあります。「私のきょうだいたち、さまざまな試練に遭ったときは、この上ない喜びと思いなさい。信仰が試されると忍耐が生まれることを、あなたがたは知っています。あくまでも忍耐しなさい。そうすれば、何一つ欠けたところのない、完全で申し分のない人になります。」

つまり、すべてのもめ事などの試練は、私達の信仰を試すために与えられているのです。それによって、私達が忍耐を学び、成長し、すみずみまでイエスのようになっていき、イエスの無私の愛を現わすことができるようになるためです。

私達の息子がフラッグフットボールでレシーバーをしていた時、毎朝公園で練習をしました。本当に一生懸命、片手でのキャッチを練習しました。まずは右手で、フォアハンドを 10 回、バックハンドを 10 回。その後、左手でも、同じようにフォアハンドとバックハンドを 10 回ずつ練習しました。

それから、膝をついて地面にダイブしながら同じ練習を繰り返しました。毎朝、これを続けました。そして、いよいよ試合になると、彼は本当に上手になっていました。ボールに触れさえすれば、必ずキャッチ出来るようになっていたのです。それが自然に出来るようになり、そのテクニックが自分のものになっていました。

これが、神が私達の人生で行っていることです。神は私達の人生に次々ともめ事や試練をもたらします。最初、私達は抵抗し、怒ります。その怒りの理由は、私達がまだお金やプライドなどに信頼し、安全や幸せがそこにあると信じているためです。

私達がパニックになったり怒ったりする必要はないと気付く時まで、神とその忠実さに頼ることしか出来ない状況に神は私達を導いていきます。私達は愛を持って神に応答し、神を信頼していればいいことがわかります。それから、次の試練がきます。

それが何度も何度も繰り返され、最終的には自然に私達の一部となります。どんなもめ事が起きても、私達は神を愛し続け、神が面倒をみて備えてくださると信じ続けることが出来るようになります。このようにして私達はイエスのようになります。不正をされても、奪われても気にしないようになります。それが勝利です。

しかし、パウロはコリントの人々にこう言っています：「しかし、あなたがたはすでに敗北している。」イエスのご性質を身に付ける代わりに、彼らはまだお金に信頼を置いていました。彼らは不公平な民事裁判所

を使い、この世の人々の助けを得て、自分達のお金を守ろうとしていたのです。

(1) あなたがたは洗われた

9節-10節「それとも、正しくない者が神の国を受け継げないことを、知らないのですか。思い違いをしてはいけません。淫らな者、偶像を礼拝する者、姦淫する者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒に溺れる者、人を罵る者、奪い取る者は、神の国を受け継ぐことはありません。」

パウロは言います。「知らないのですか。(英語では「だまされてはいけません」)」「だます者」、すなわちサタンがいて、私達をだまそうとしているのです。サタンはこう言うでしょう。「淫らな者、偶像を礼拝する者、姦淫する者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒に溺れる者、人を罵る者、奪い取る者」であっても問題ないと。

パウロは、神の国はこれらのことを継続的に行わないようになった人々のものだと言います。これらすべてが、神を信頼せずに他人を犠牲にして何か(お金、成功、または快楽)を得るようなものであることに注目してください。

私達が「神による世話と備え」を信頼してイエスの「無私の愛」を示すこととは、正反対です。

なぜパウロがここで「同性愛的行動」を特に挙げたのか不思議に思われるかもしれません。ここで注目すべきは、「行動」に重点を置いていることであり、「魅力」と戦っている人ではないということです。

聖書解説者ウィリアム・バークレーによると、同性愛的行動はまずギリシャで広まり、その後ローマにも広がり、広く実践されていました。ソクラテスがそれを実践していたことが知られています。プラトンはそのことについて書きました。ローマ皇帝最初の15人のうち14人が同性愛的行動を行っていました。

この手紙が書かれた時、皇帝はネロでした。彼は「スポルス」という少年を妻として迎え、また「ピタゴラス」という男性を夫として迎えました。そのような世界だったのです。

11節「あなたがたの中にはそのような者もいました。しかし、主イエス・キリストの名と私たちの神の霊によって洗われ、聖なる者とされ、義とされたのです。」

先週学んだように、私達はクリスチャンになる前、淫らな者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人を罵る者、酒に溺れる者でした。そして、誰も私達を変えることは出来ませんでした。しかし、神が福音を通して不思議な方法で私達を変えてくださいました。今となっては、私達はもうそれらのどれもしたくありません。

時にはこれらのことで苦しむこともあるかもしれません。でも私達は「神さまの知恵」を思い、自分の罪を見て、十字架のもとにいき、神の助けを求めます。そして神を信じ、頼ることを覚え、イエスのように「無私の愛」を示すのです。

創世記13章で、アブラムと彼の甥ロトの間でもめ事があったことが書いてあります。彼らの家畜があまりにも多くなり、一緒に住むことが出来なくなったのです。アブラムは言いました。「私とあなた…との間で争い事がないようにしたい。」(創世記13:8)そして片方は右に、もう片方は左に行くことを提案しました。

アブラムはロトより年上でしたが、ロトに先に選ばせました。ロトはより良い土地を選びました。驚くべきことに、アブラムは全く怒りませんでした。彼は愛と自己中心でない思いを持ち続けました。なぜでしょうか？それは彼がそうする必要がなかったからです。アブラムは土地ではなく、神を信じ、頼っていたからです。そして神は全てを彼に与えると約束していました。

これが、神が私達に持っていてほしい信仰です。神を信じ、神に頼ることです。兄弟姉妹ともめ事を起こすのではなく、愛と自己中心でない思いを持ち続け、私達がまず神の国と神の義を第一に求める時、神が私達に必要なすべてを与えてくださることを信頼することです。

もしかしたら、今、誰かに対して怒りを感じているかもしれません。それはお金や他のことが原因かもしれません。パウロはこれをあなたのために書きました。だまされてはいけません。愛と自己中心でない思いを持ちましょう。神を信頼しましょう。神が私達の面倒を見てくださいます。

もしあなたがまだクリスチャンでないなら、これはあなたのためでもあります。イエスにあなたご自身の面倒をみてもらいましょう。これから違う生き方をしましょう。今日、始めてください。

定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg0825jp

★クラス 101
教会員になるためのメンバーシップクラス
2月16日(日)1pm - 5pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

奉仕者募集中！

1．日本語訳字幕作成（1名募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
Mac でプロプレゼンターというソフトで作成しますが、1，2 回のトレーニングで簡単に覚えられます。作成後、土曜日 19 時の礼拝の日本語訳字幕オペレーターもお願いしています。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

2．週末礼拝メッセージ翻訳（3名募集）
1 か月半に 1 度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語のメッセージ原稿を日本語に翻訳します。
スキル：英語と日本語が堪能な方

3．日本語訳レイアウト&印刷（女性 2 名募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。
スキル：MS Word の操作ができる方。
英語のスキルは必要ありません。